2015年11月号「vol.65」 ◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-24-3　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-761-7451

県議会議員

あらい絹世の 磯っ子レポート

県政をもっと身近に

http://www.araikinuyo.jp

神奈川県が〝民際外交〟基に国際交流
今年は韓国の京畿道と友好提携25周年

横浜港を抱えた神奈川県は国内有数の国際県であるとともに、友好交流の先進県でもあります。長洲一二知事時代（1975～1995）には「地方同士の国際交流を進める中で、国同士の友好も進むように後押ししていこう」との〝民際外交〟が提案され、積極的に推進されてきました。この中で、1981年に米国のメリーランド州、1983年に中国の遼寧省、1989年にはドイツのバーデン・ビュルテンベルク州、1990年に韓国の京機道とそれぞれ友好提携協定書が交わされて交流が進められてきました。またオデッサ州（ウクライナ）、ペナン州（マレーシア）、ゴールドコースト市（豪州）、ヴェストラジョータランド県（スウェーデン）とも、共同声明に調印するなどの形で友好提携しています。そして日本と韓国が国交正常化して50周年に当たる今年、神奈川県と京畿道（キョンギド）も友好提携25周年を迎えました。この記念事業として県立三ツ池公園（横浜市鶴見区）内に設けられているコリア庭園では10月18日に「日韓市民交流マダン（韓国語で広場）」の行事が盛大に催されました。

神奈川県は160余カ国の約16万6000人が在住している（2015年1月現在）国際県ですが、友好提携事業は行政同士のやり取りだけでなく、2004年から毎年、神奈川県、遼寧省、京畿道の中高校生が一堂に集ってのスポーツ交流も実施されてきました。会場は毎年持ち回りで、今年8月には神奈川県内を会場に卓球など3種目が行なわれました。また交流のなかから最近では産業や文化の特定分野での協力のきっかけも生まれるようになっています。グローバル化が急速に進む時代にあって「まずは市民一人ひとりが身近な交わりを通じて相手を正しく理解することが大切」といわれますが、これに関して今後、自治体の役割もますます問われそうに思います。

京畿道は首都のソウルを取り囲むようにした地域で、人口約1264万人（2012年現在、韓国の約24%）。国を代表するグローバルIT企業の製造拠点があるなど工業、ソウルへの供給地として農業が盛んな所です。友好提携25周年に際しては今年8月、黒岩祐治知事が同道を訪れ、ナム・ギョンビル同道知事と25周年の共同宣言に調印。今後、神奈川県が進めている未病を治す施策に共同で取り組んでいくことなどが合意されました。日韓市民交流マダンは、韓国の音楽などを紹介したステージや工芸の実演コーナー、屋台などが並んでにぎわいました。今回は災害支援として箱根のコーナーも出され、コリア庭園の象徴で今回更新されたチャンスン（村の守り神）の除幕式も行われました。

コレが言いたい！

本県に於いては昭和51年に国際交流課が設置されるなど、国際交流については他の自治体より長い歴史があります。今後本県の国際交流を進める上で「人を育て、人をつなげる」人づくりが重要あり、信頼関係を更に築く取り組みを進めるべきです。その信頼関係が、民間レベルでの国際交流推進の支援になると考えます。

今月のひと言

11月は子ども・若者育成支援強化月間です。神奈川県では平成17年3月に「かながわ青少年育成指針」を策定し、平成22年に改定されました。指針改定から5年目を迎え、青少年を取り巻く状況が激しく変化している中、平成28年4月に指針の改定を行うこととしています。

磯子 あれ？これ？

中里陣屋　江戸時代中・末期

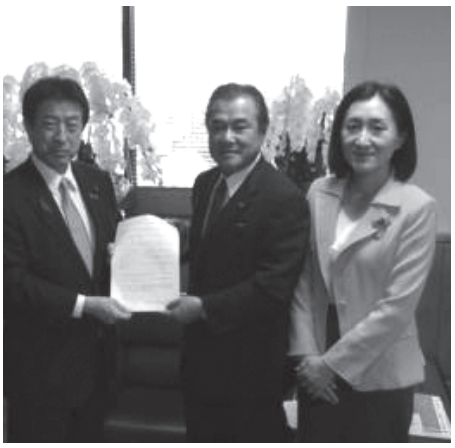
杉田間宮家五代目信勝の弟俊信は、本家から久良岐・近江国の七百石を与えられ分家した後、幾つかの寺社を建立・再興しました。また、俊信の三男信明は三百石を分知され元禄16（1703）年、今の上中里に陣屋を構えました。現在、上中里神社がある丘の北側に三角形の谷戸があるあたりで、通称「古屋敷」と呼ばれた場所が信明の陣屋跡ではないかと言われています。信明がこの場所に陣屋を構えた理由として、安房の里見軍が杉田の海岸より侵入して鎌倉から小田原へと攻め入るのを阻止するための防衛拠点だったと思われます。

現在上中里町内会館が在る場所には、杉田間宮家六代目信久（のぶしげ）が寛文12（1672）年に真言宗の廃寺跡を再興し、後に杉田妙法寺の末寺として日蓮宗間宮寺（げんぐうじ）を開創しました。新編風土記が書かれた天保の頃に中里陣屋は姿を消し、その保護下にあった間宮寺も衰退してしまい明治初年の神仏分離により廃寺となりましたが、現在でも間宮寺から移された不動明王の石仏が上中里神社に上がる階段の中段に祀られています。

参考資料：磯子の史話・磯子の城砦16・新編風土記

活動報告

12月から県立がんセンターで重粒子線治療が開始されます。現在、重粒子線治療によるがん治療は混合診療が認められる先進医療Aに位置付けられ、照射費用を自己負担すれば、残りの入院や検査、投薬の費用に保険が適用できます。しかし、日本放射線腫瘍学会が「前立腺がん、肺がんなどの部位では既存の治療法との比較で優位性を示すデータが集められなかった」との報告書を提出した事を受け、国では平成28年4月の診療報酬改定に合わせて重粒子線治療の取扱いの見直しを検討しています。重粒子線治療が先進医療の枠組みから外れた場合、入院や検査など保険適用されている治療費全額も患者負担となり混乱が生じることから、引き続き先進医療Aを継続するよう、「県議会がん撲滅をめざす議員連盟」では10月19日、塩崎厚生労働大臣・菅官房長官に要望書を提出しました。



あらい絹世 プロフィール

- ●昭和43年3月8日　横浜市磯子区生まれ
- ●横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- ●明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- ●日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- ●自民党かながわ政治大学12期生
- ●平成27年4月 県議会議員2期目当選
- ●県民企業常任委員会委員
- ●行財政改革・地方分権特別委員会副委員長
- ●自民党神奈川県議会議員団政務調査会副会長

✉ あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい・・・・・・・・・・ FAX 045-761-7451